

「船橋時代」を

日記から読み解く(一)

昭和10(1935)年4月、山中直治は、10年間勤めた野田尋常高等小学校(現在の野田中央小学校)から、船橋尋常高等小学校へ転勤となりました。

同校には当時、第二校舎(現在の船橋市立小学校)と第三校舎(現在の船橋市立海神小学校)があり、直治は転勤が決まると同時に下宿先も探したようです。

これまで、直治の船橋での活動の様子は、詳しい資料がなくほとんど知られていません



金子薬局の裏に直治が住んでいた建物がかつてありました

「夕刊にて船橋転勤を知る。何にしても突然のことなのでおどろいたことだ。古沢氏と一緒に何が何よりもいい」と昭和10年3月30日の日記に書いています。

記載からすると、異動の知らせを新聞で突然知ったようです。「古沢氏」とは、中央小学校で直治と同じく教壇に立った古沢光義のことと思われます。

古沢は明治36(1903)年に岐阜に生まれ、大正15(1926)年4月14日、野田尋常高等小学校に着任します。日記の書き方から推察すると、古沢と一緒に船橋へ異動したのでしょうか。

続いて、「午前中に役場のあいさつ。正午から送別会。1時40分(電車)で船橋の学校に顔出しをなす。夜8時半頃帰った」(同年4月2日)、「9時6分ので野田驛を出発する。福地君のお世話

で下宿も見つかる」(同年4月5日)とあります。

当時の東武野田線は、総武鉄道といい、野田から船橋まで柏での乗り換えも含めて約80分かかりました。

なお、柏から船橋まではまだ電化されておらず、昭和22(1947)年3月1日までは蒸気機関車も走っていたようです。

当初、直治は船橋駅に近い海神片町に下宿していました。日記には翌年2月2日、「海神の金子薬局の借家うつる」とあり、実際に書かれた番地を訪ねてみると、閉店していましたが海神一丁目「金子薬局」は実在していました。

家主の金子マサ江さんからは「当時、3〜4軒の家を貸していましたが、現在はその場所にアパートを建てているので面影はありませんが」と直治が暮らしていた場所を案内してくださいました。

現在は住宅街となり、当時を偲ぶものはありませんでしたが、船橋時代の直治の足跡をひとつ確認する事が出来ました。

※文中敬称略(11月1日号へつづく)

取材協力 船橋市立海神小学校、東武博物館

10月の休日当番医

休日当番医での診療時間

外科・産婦人科 = 9時~22時 (ただし16時~19時は除く)

内科 = 9時~16時 (19時~22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
3日(日)	西村クリニック(☎7123-0050)	大槻医院(☎7127-3424)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
10日(日)	しばやま整形外科(☎7120-5355)	はたのこどもクリニック(☎7123-7121)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
11日(月)	小張総合病院(☎7124-6666)	野田病院(☎7127-3200)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
17日(日)	野田中央病院(☎7122-6161)	奥野循環器科クリニック(☎7123-7711)	小張総合病院(☎7124-6666)
24日(日)	東葛クリニック野田(☎7124-3101)	野田南部診療所(☎7121-0171)	アイレディースクリニック(☎7137-7661)
31日(日)	須藤整形外科(☎7122-1221)	新村医院(☎7138-2103)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認してください。

急病センター

☎7125-1188

▼内科(小児科) = 19時~22時(毎日)

▼歯科診療 = 9時~12時(休日)

◆記録的猛暑も終わり、スポーツや食欲の秋が到来。関宿総合公園と野田市総合公園の両体育館は、今日から4日まで、国体のバドミントン競技会場です!「ゆめ半島千葉国体」の愛称のとおり、全国から選ばれた選手たちが夢と感動を与えてくれることでしょう!▼もっぴとつ、「ゆめ」といえば「ゆめめぐり野田」も多くのお客様で賑わっています▼今号6ページでご紹介した「ブランド認定マーク」が貼られた農産物も店頭にお目見えします。野田産の安全安心な農産物で「食欲の秋」も楽しんでください(ゆ)

編集後記

市の木



けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり